



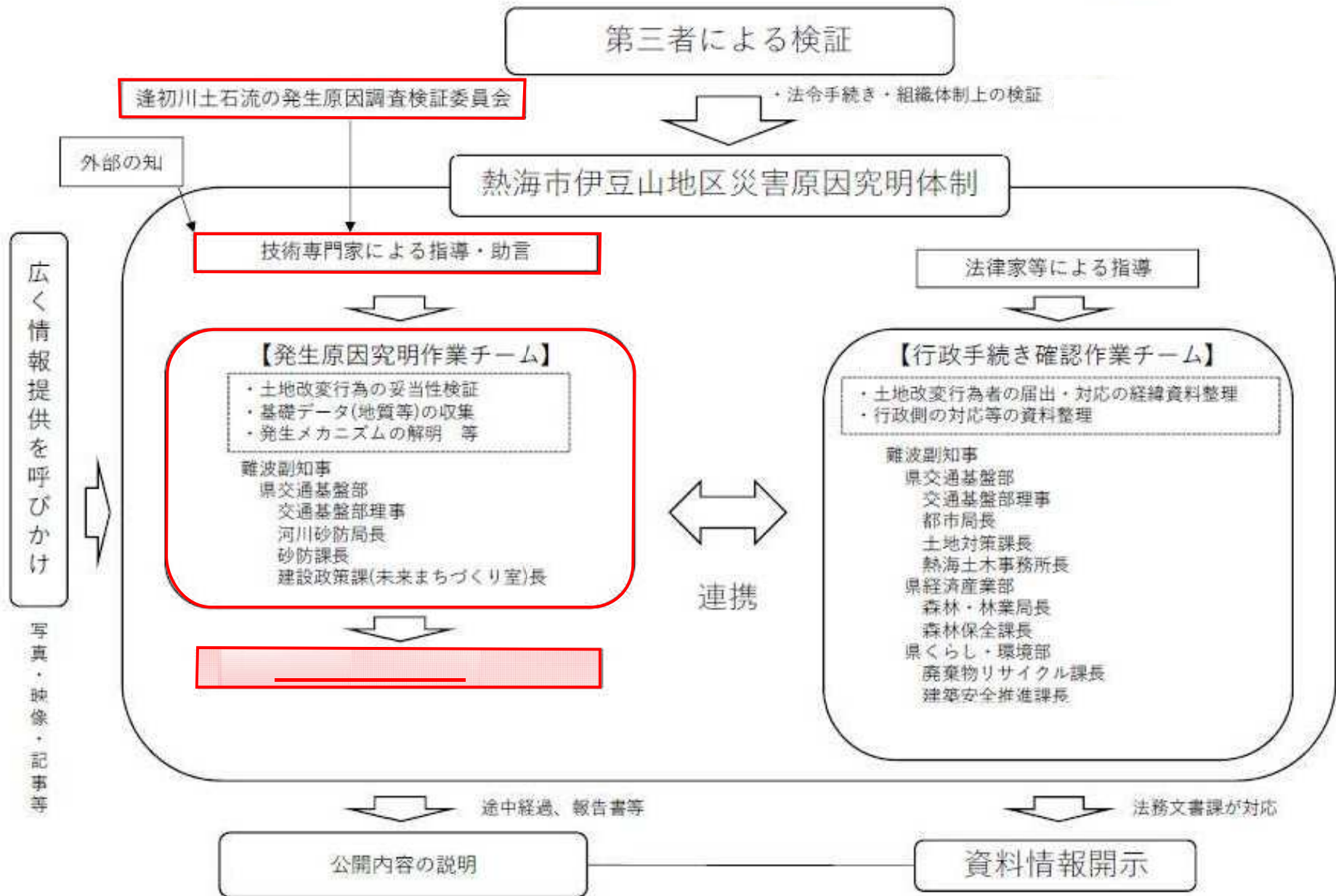
逢初川源頭部北側隣接地の状況



令和5年3月19日
静岡県

1. 逢初川土石流の原因究明

発生原因調査報告書は、結果をホームページに公開している。



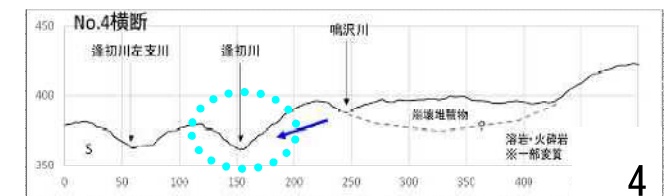
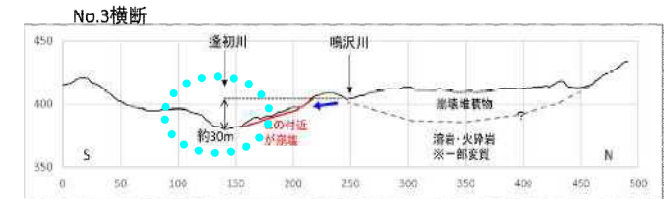
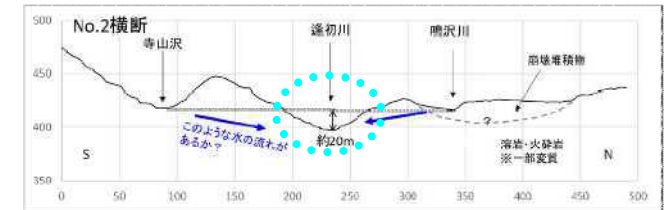
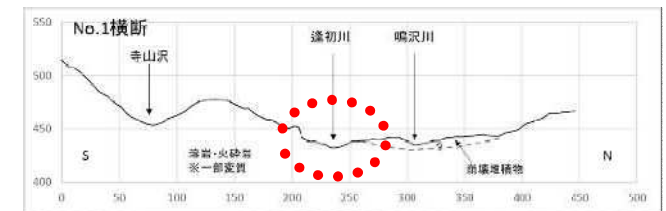
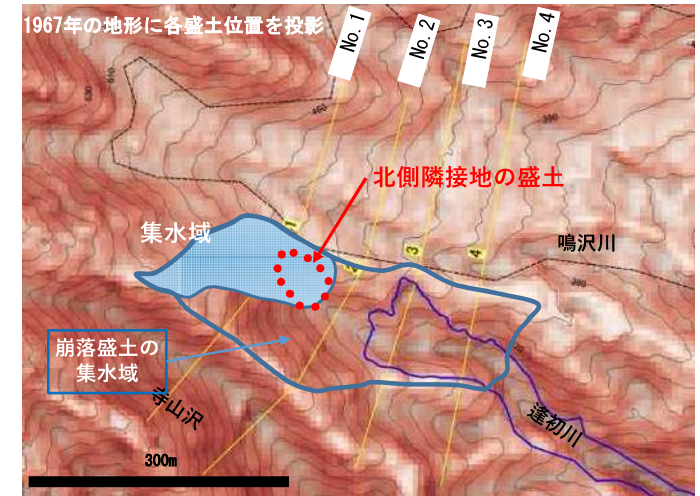
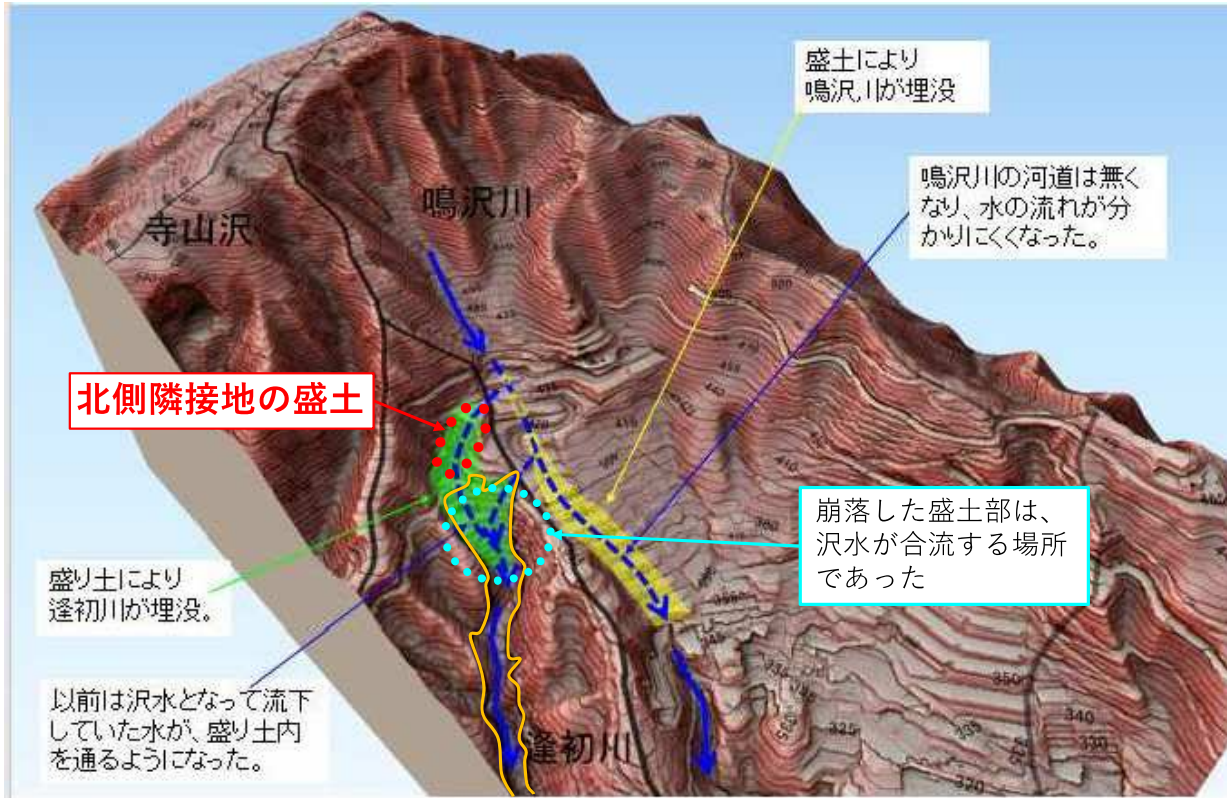
2. 地形・地質調査結果



2. 地形・地質調査結果

北側隣接地の位置関係

- 盛土は、谷を埋めている可能性が高く、逢初川上流部に位置し、集水面積が小さいため、表流水が集まり難い。
- 比較的谷が浅く、これまであまり侵食を受けてこなかったため、水が集まり難い。



出典：逢初川土石流の発生原因調査報告書（令和4年9月8日）に加筆

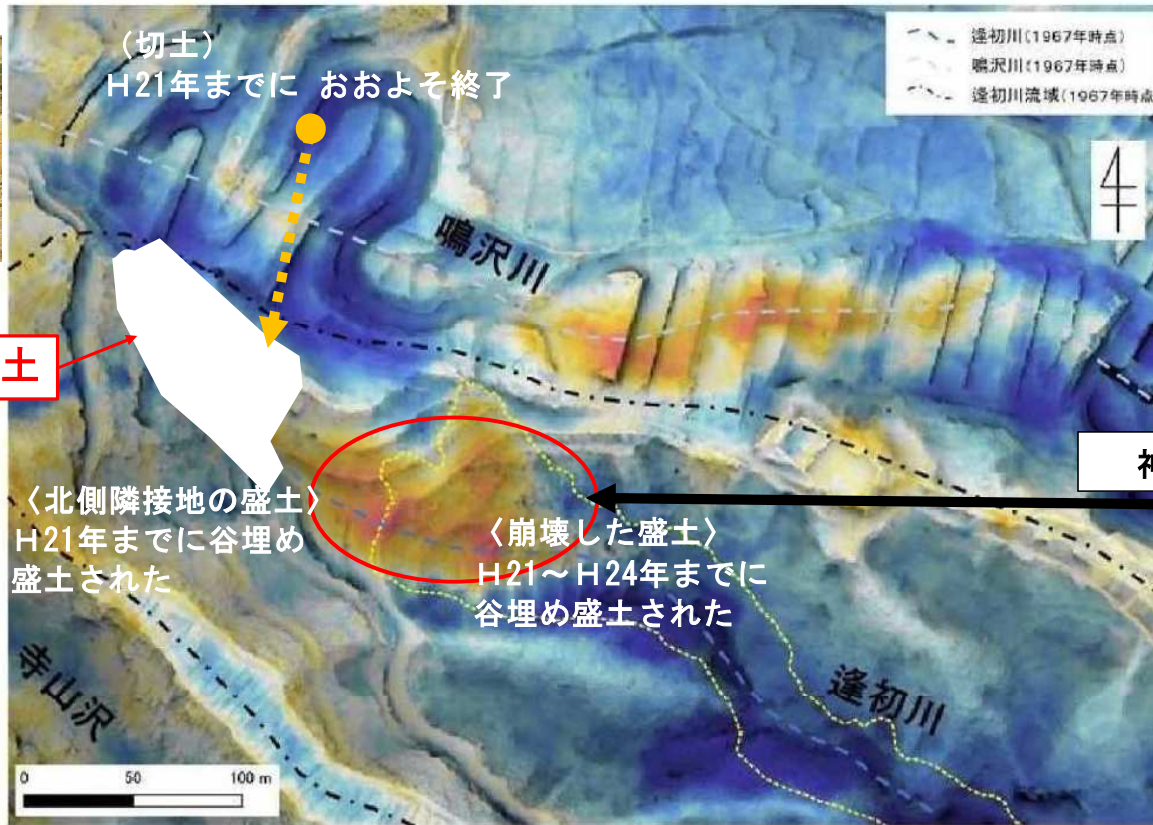
2. 地形・地質調査結果

H21年までに盛土された「北側隣接地の盛土」と、
H21年からH24年に盛土された「崩壊した盛土」では、施工時期が違う。

北側隣接地の盛土
の土砂（赤褐色）



北側隣接地の盛土

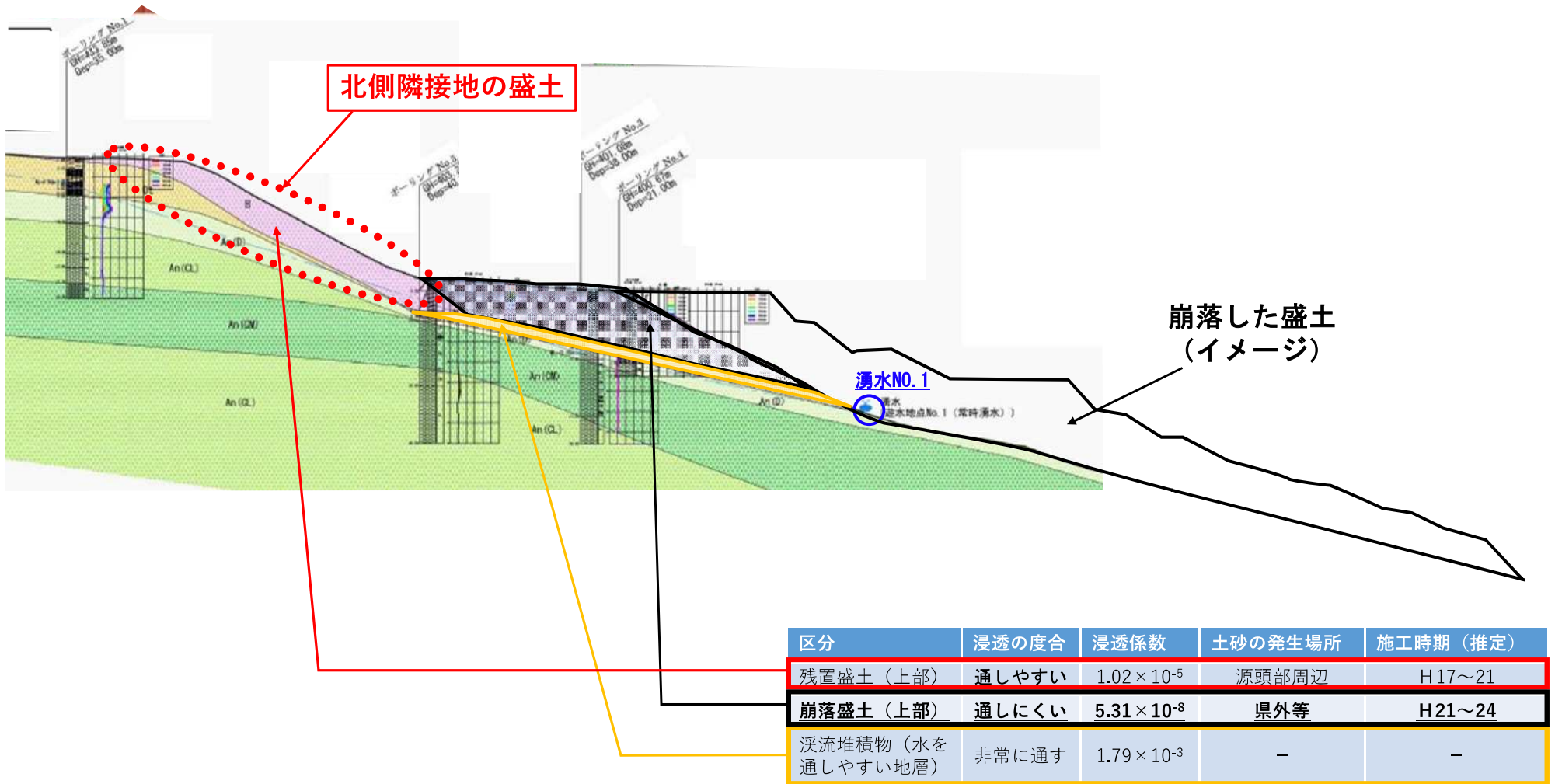


崩壊した盛土の土砂
(黒色)

1967年の地形データは植生を含むDSMであるため、標高差分値には誤差を含む。

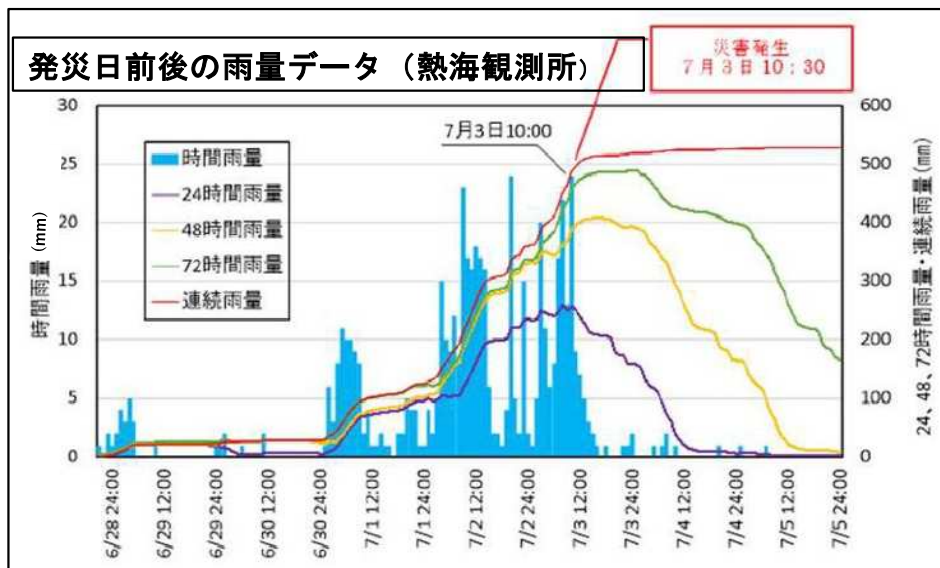
2. 地形・地質調査結果

- 「崩壊した盛土」は水を通しにくいことが確認された。
- 一方、「北側隣接地の盛土」は水を通しやすく、崩壊した盛土とは別の土砂である。



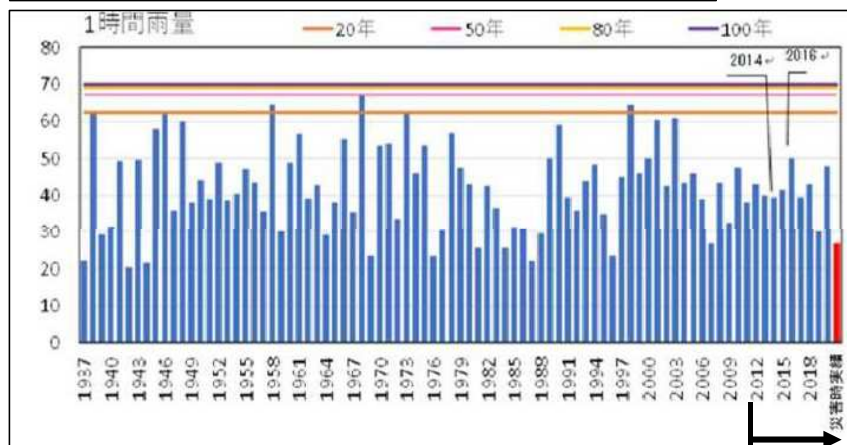
3. 逢初川源頭部の表面水 ～発災時の降雨の状況と過去の降雨の記録

- ・ 1時間雨量は、24mm/hと過去と比べても大きいものではなかった。
- ・ 72時間（3日間）で観測された雨量は約461mmと既往最大※熱海観測所であった。



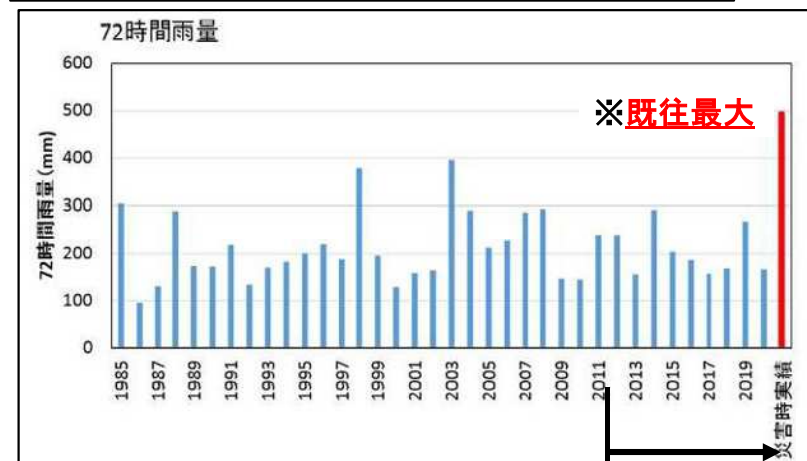
- ・ 1時間雨量は、発災時を超えるような記録が残っている。
- ・ 発災日前後の3日間の雨量は、**既往最大**（今までは292mm/h）となった。

(1) 1時間雨量の年最大値（熱海観測所）



盛土施工後

(2) 72時間雨量の年最大値（熱海観測所）



盛土施工後

3. 逢初川源頭部の表面水～降雨による影響を確認したが、源頭部への流入痕跡はない

写真⑫



写真⑬



鳴沢川上流の舗装道路(市道)。強い降雨によって表流水が発生した場合には分散し、その一部が逢初川に流入する可能性は否定できないが、市道の両側に側溝が設置されている。集中的に流入した痕跡は確認できない。

